

特別講演2では、厚生労働省医政局長 吉田 学氏に「医療政策の動向 ～地域医療構想・地域包括ケアと働き方改革～」という題で、まず、2025年の目標に向けて、続いて、地域医療構想の実現、医師偏在対策、人材確保、「働き方改革」の具体的進捗状況、さらに「2040年」構想の検討という順で、要点をまとめてお話をされました。病院の現場の職員も今日本の医療界で何が問題となっているのか、理解出来たものと考えています。

特別講演3では、濱口道成国立研究開発法人科学技術振興機構理事長に「科学技術政策で描く日本の未来」と題する講演をお聴きしました。今のままの教育、科学技術開発の方針が続くと、日本は新たなノーベル賞受賞者が出なくなり、他の新興国に追い越されるとの危機感をいなく理由を、客観的なデータに基づき講演され、「我々がしっかりしないといけない」という感想を持ちました。

教育講演は4題で、兼児敏浩三重大学医学部附属病院医療安全管理部教授による「臨床倫理と医療安全～3つの視点で考える臨床倫理～」、荒川宜親名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学教授による「多剤耐性菌アウトブレイク防止のための細菌学的基礎知識」、武藤正樹国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野教授による「診療報酬改定と働き方改革」、真野俊樹中央大学大学院戦略経営研究科教授による「医療危機 高齢社会とイノベーション」をご講演いただきました。

教育セミナーとしてクリティカルパスについては、「アウトカム志向のクリティカルパスの作成から評価まで」という題名で、伊藤淳二青森県立中央病院整形外科部長に座長をお願いし、2人の講師が担当されました。医療安全では、「RCAの概要と実際」という題名で、長谷川 友紀東邦大学医学部社会医学講座教授に座長をお願いし3名の講師が担当されました。

今回は、メインシンポジウム以外に12のシンポジウムを企画しました。題名を中心に紹介いたします。

働き方改革というテーマでしたので、医師の仕事のタスクシフト先を最も重視しました。そこで、国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野教授の武藤正樹先生と東京医療保健大学副学長の坂本すが先生に座長をお願いし、看護師の「特定行為研修制度」を開催、同じく坂本すが先生と八幡平市国民健康保険西根病院統括院長 望月 泉先生に座長をお願いし「タスクシフティングによるチーム医療」を開催、松本市立病院副院長の中村雅彦先生、淑徳大学短期大学部健康福祉学科准教授の降旗 光太郎先生に座長をお願いし、「医師事務作業補助者の導入は、医師の生産性向上に寄与するか」を開催し、タスクシフト関係では、3つのシンポジウムとなりました。

ワークライフバランスも働き方改革には重要な視点



会場風景

です。産業医科大学医学部公衆衛生学教授の松田晋哉先生と名古屋大学大学院生命農学研究科教授・男女共同参画センター長の東村博子先生に座長をお願いし、「男女共同参画 医療におけるワーク・ライフ・バランスを進めるために」を開催しました。

多くの職種が参画する地域医療連携も重要です。名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター長・病院教授の水野正明先生と、愛知県医師会理事の野田正治先生に座長をお願いし、「地域共生社会創成に向けて 多職種間コミュニケーションの重要性」を開催、一宮市立市民病院患者サポートセンター・医療福祉連携士の青井弘子先生と広南会広南病院神経内科・医療福祉連携士の中村起也先生に座長をお願いし、「地域包括ケアシステム構築・推進に必要な地域医療連携とは～地域医療連携での医療福祉連携士の必要性と期待～」を開催しました。

これからは人力だけでは不十分という時代が予想されています。藤田医科大学医学部リハビリテーション医学講座講師の平野 哲先生と国立病院機構新潟病院院長の中島 孝先生に座長をお願いし、「ロボット工学とりハビリテーション」を開催、岐阜大学工学部特任教授藤田広志先生と滋賀大学データサイエンス学部データサイエンス研究科准教授の村松 千左子先生に座長をお願いし、「医療におけるAI利活用の現状と将来」を開催、名城大学都市情報学部都市情報学科教授の酒井順哉先生と小牧市民病院臨床工学科技師長の神戸幸司先生に座長をお願いし、「機器管理スマート医療機器が医療安全・業務効率を変えるか」を開催しました。

医療安全も重要です。名古屋大学はここ数年トヨタという産業界の品質改善手法を医療安全に取り込むというユニークな試みを行ってきました。その紹介も兼ねて、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部教授の長尾能雅先生とトヨタ自動車株式会社業務品質改善部主査の古谷健夫先生に座長をお願いし、「品質管理と患者安全の融合」を開催しました。

この学会にクリティカルパスは欠かせません。前横浜市医療局病院経営本部病院事業管理者病院経営本部